

2020オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2019 オフィシャル ルール

1-2項 アピール プレイ APPEAL PLAY とは、審判員が監督・コーチ・プレイヤーに要求されるまで判定をすることができないプレイで、正しい投球、不正投球にかかわらず次の投球動作に入る前になされなければならない。

また、インニングの終了のときは守備者全員がフェア地域を離れるか、審判員が試合終了の宣告をする前にしなければならないプレイをいう。

なお、監督やコーチによるボールデッド中のアピールは、競技場内（ベンチを含まない）に入った後にしかできない。

【例外】無通告交代、再出場違反、DP違反、代替プレイヤー違反のアピール権は、当該プレイヤーが交代するまで継続され、消滅することはない。

アピールプレイは次の8つの場合である。

- (1) 走者が塁を空過したとき。
- (2) 飛球に対して走者の離塁が早過ぎたとき。
- (3) 打順誤りがあったとき。
- (4) 打者走者が一塁通過後に二塁へ向かおうとしたとき。
- (5) 無通告交代したとき。
- (6) 代替プレイヤー違反があったとき。
- (7) 不正再出場したとき。
- (8) DP違反があったとき。

P9~10

2020オフィシャル ルール

1-2項 アピール プレイ APPEAL PLAY とは、審判員が監督・コーチ・プレイヤーに要求されるまで判定をすることができないプレイで、正しい投球、不正投球にかかわらず次の投球動作に入る前になされなければならない。

また、インニングの終了のときは守備者全員がフェア地域を離れるか、審判員が試合終了の宣告をする前にしなければならないプレイをいう。

なお、監督やコーチによるボールデッド中のアピールは、競技場内（ベンチを含まない）に入った後にしかできない。

【例外】無通告交代、再出場違反、DP違反、代替プレイヤー違反のアピール権は、当該プレイヤーが交代するまで継続され、消滅することはない。

アピールプレイは次の8つの場合である。

- (1) 走者が塁を空過したとき。
- (2) 飛球に対して走者の離塁が早過ぎたとき。
- (3) 打順誤りがあったとき。
- (4) 打者走者が一塁通過後に二塁へ向かおうとしたとき。
- (5) 無通告交代したとき。
- (6) 代替プレイヤー違反があったとき。
- (7) 再出場違反があったとき。
- (8) DP違反があったとき。

P9~10

※ルール改正の理由・趣旨

「不正再出場」の文章表現がわかりにくかったため、「再出場違反があったとき」とより明確で具体的な表現に改めた。
【これに付随する修正】P108 ●審判員のための一般的知識 18（注）を同様の文章表現に修正した。

1-40項 故意四球 (INTENTIONAL BASE ON BALLS) とは、守備側チームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が、球審にその旨を通告することをいう。

（注1） 通告は投球とみなされ、四球を与えるに必要な投球数がカウントされる。

（注2） 通告は、打席の初めでも、いかなるボールカウントのときでも行うことができる。

（注3） 故意四球が球審に通告されると、ボールデッドとなり、走者はフォースのとき以外は進塁できない。

（注4） 2人の打者に故意四球を与えたいときは、最初の打者が一塁に達するまでは、2番目の打者を歩かせることができない。

P16

1-40項 故意四球 (INTENTIONAL BASE ON BALLS) とは、守備側チームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が、球審にその旨を通告することをいう。

（注1） 通告時、すでに投球した数だけを投球数に加える。

（注2） 通告は、打席の初めでも、いかなるボールカウントのときでも行うことができる。

（注3） 故意四球が球審に通告されると、ボールデッドとなり、走者はフォースのとき以外は進塁できない。

（注4） 2人の打者に故意四球を与えたいときは、最初の打者が一塁に達するまでは、2番目の打者を歩かせることができない。

P16

※ルール改正の理由・趣旨

WBSC（世界野球ソフトボール連盟）の適用基準に合わせて改正した。

【これに付随する修正】P64 6-8項 故意四球（注1）を同様の内容に修正した。

3-5項 マスク・プロテクター・レガーズ・ヘルメット

1. マスク・捕手用ヘルメット

捕手は、スロートガード付きマスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。

（注1） 捕手用ヘルメットはJSA検定マークが入っているものを着用することが望ましい。ただし、2020年度からはJSA検定マークが入っているものを着用しなければならない。

（注2） 捕手用マスクはSGマークが入っているものを着用することが望ましい。ただし、2019年度まで猶予期間とし、2020年度からSGマークが入っているものを着用しなければならない。（※SGマークとは、一般財団法人製品安全協会の定める基準に適合したものを指す）

（注3） 準備投球のとき、競技場内のいかなる場所で投球練習するときも必ず着用しなければならない。

P37

3-5項 マスク・プロテクター・レガーズ・ヘルメット

1. マスク・捕手用ヘルメット

捕手は、スロートガード付きマスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。

（注1） 捕手用ヘルメットはJSA検定マークが入っているものを着用しなければならない。

（注2） 捕手用マスクはSGマークが入っているものを着用しなければならない。（※SGマークとは、一般財団法人製品安全協会の定める基準に適合したものを指す）

（注3） 準備投球のとき、競技場内のいかなる場所で投球練習するときも必ず着用しなければならない。

P37

※ルール改正の理由・趣旨

すでに2020年からの着用義務づけを予告済みであることから、その予告通り本年度からJSA検定マーク入り捕手用ヘルメット、SGマーク入り捕手用マスクの着用を義務づける。

2020 オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2019 オフィシャル ルール

3-7項 ユニフォーム

P40

1. ユニフォーム

同一チームの監督・コーチ・プレイヤーのユニフォームは、同色・同意匠でなければならない。

(注1) ストッキング・ソックスはユニフォームの一部である。

(注2) スライディングパンツ・アンダーシャツなどもチームで同色でなければならない。

(注3) ショートパンツを着用する女子チームの監督・コーチは、上衣は同色・同意匠、ズボンは同色であればよい。

2. ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER)

ユニフォームナンバーは、背中と胸下につける。

監督は30、コーチは31・32、主将は10、他のプレイヤーは1から99までの番号とする。

数字の大きさは、背中は15cm以上、胸は6cm～12cmとする。

ユニフォームの背中に、個人名・チーム名・R 3-8項に規定された宣伝広告(企業名・商品等)に類するロゴマークをつけるときは、ユニフォームナンバーの上部に全員がつけること。(個人名はローマ字表記のみとする)

3. 帽子

(1) 男子は、全員同色・同意匠の帽子をかぶらなければならない。

(2) 女子の帽子・バイザー・ヘッドバンドなどは、同色・同意匠のものを混用してもよく、無帽でもよい。

ただし、プラスチック製のバイザー(破損や飛散によってケガをさせる可能性のあるもの、あるいは強固な材質で接触プレイの際にケガを誘発する可能性のあるもの)は安全性の面から使用を禁止する。

4として「アンダーシャツ」を新設

※ルール改正の理由・趣旨

WBSCではすでに「アームスリーブ」の使用が認められているため、ISAルールでもその使用を認めるが、使用のための「一定のルールづくり」が必要と考え、右記内容を明記する形でルール改正を行った。

【これに付随する修正】

6-5項 異物の使用 6-5項2に(注)を追加。
アームスリーブは、3-7項4に規定されたアンダーシャツとみなし、両腕に着用し、アンダーシャツと同色であることを条件として着用することができる旨を明記した。

- (7) 失格選手が試合に出場し、次の投球動作に入ったとき。
- (8) 退場になった監督・コーチ・選手が再び試合に出場したとき。
- (9) チームのプレイヤー・関係者から、審判員が暴言や暴行を受けたとき。
- (10) チームのメンバーが審判員に注意されたのち、故意にルール違反をしたとき。

(注) 没収試合の決定は、大会競技委員長・審判長・および**当該審判員**が協議して、球審が宣告する。(得点は7-0となる)

P55

2020 オフィシャル ルール

3-7項 ユニフォーム

P40~41

1. ユニフォーム

同一チームの監督・コーチ・プレイヤーのユニフォームは、同色・同意匠でなければならない。

(注1) ストッキング・ソックスはユニフォームの一部である。

(注2) スライディングパンツ・アンダーシャツなどもチームで同色でなければならない。

(注3) ショートパンツを着用する女子チームの監督・コーチは、上衣は同色・同意匠、ズボンは同色であればよい。

2. ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER)

ユニフォームナンバーは、背中と胸下につける。

監督は30、コーチは31・32、主将は10、他のプレイヤーは1から99までの番号とする。

数字の大きさは、背中は15cm以上、胸は6cm～12cmとする。

ユニフォームの背中に、個人名・チーム名・R 3-8項に規定された宣伝広告(企業名・商品等)に類するロゴマークをつけるときは、ユニフォームナンバーの上部に全員がつけること。(個人名はローマ字表記のみとする)

3. 帽子

(1) 男子は、全員同色・同意匠の帽子をかぶらなければならない。

(2) 女子の帽子・バイザー・ヘッドバンドなどは、同色・同意匠のものを混用してもよく、無帽でもよい。

ただし、プラスチック製のバイザー(破損や飛散によってケガをさせる可能性のあるもの、あるいは強固な材質で接触プレイの際にケガを誘発する可能性のあるもの)は安全性の面から使用を禁止する。

4. アンダーシャツ

(1) プレイヤーのアンダーシャツは同色でなければならない。すべてのプレイヤーがアンダーシャツを着用することは必須ではないが、一人でもアンダーシャツを着用する場合は、他のプレイヤーは同色のものを着用しなければならない。また、どのプレイヤーも、露出したアンダーシャツの袖がほつれ、擦り切れたり、スリットが入ったものを着用してはならない。

(2) アームスリーブ(腕の保護ガード)を着用する場合は、アンダーシャツの着用と同様のルールを適用し、両腕にアンダーシャツと同色のものを着用しなければならない。

(注)片腕のみの使用は禁止する。

- (7) 失格選手が試合に出場し、次の投球動作に入ったとき。
- (8) 退場になった監督・コーチ・選手が再び試合に出場したとき。
- (9) チームのプレイヤー・関係者から、審判員が暴言や暴行を受けたとき。
- (10) チームのメンバーが審判員に注意されたのち、故意にルール違反をしたとき。

(注) 没収試合の決定は、大会競技委員長・審判長・および**担当審判員**が協議して、球審が宣告する。(得点は7-0となる)

P55

※ルール改正の理由・趣旨

5-3項 正式の試合 6. 没収試合(フォーフィテッドゲーム)の(10)(注)を「競技者必携」で使用している用語と同じ用語(当該審判員→担当審判員)に修正した。

2020 オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2019 オフィシャル ルール

2020 オフィシャル ルール

5-6項 タイブレーカー

P55

5-6項 タイブレイク

P55

※ルール改正の理由・趣旨

「タイブレーカー」の名称が一般的でないため、テニス、野球等、他競技も使用している「タイブレイク」に名称を改める。

【名称変更に付随する修正】P6 もくじ、P53 5-3 項 2 延長試合、P55 ページ右上の表記、

P124 12-15 項 自責点（注4）、P126 12-19 項 完全試合（パーフェクトゲーム）（注2）※2 箇所、

P127 12-20 項 無安打無得点試合（ノーヒット・ノーラン）（注2）、P182 索引

7-1 項 次打者

1. 次打者は打順表（ラインアップカード）で打者の次に名前が記入されているプレイヤーである。
2. 次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、一塁側・三塁側どちらの次打者席で待機してもよい。
3. 次打者は次打者席に検定バットを2本まで持ち込むことができる。

P69

7-1 項 次打者

1. 次打者は打順表（ラインアップカード）で打者の次に名前が記入されているプレイヤーである。
2. 次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、安全面を考慮し、打席にいる打者が右打者の場合は三塁側、左打者の場合は一塁側の次打者席で待機しなければならない。
3. 次打者は次打者席に検定バットを2本まで持ち込むこと

P69

※ルール改正の理由・趣旨

WBSCのルールでは「一塁側・三塁側どちらの次打者席で待機してもよい」となっているが、実際の大会での運用は上記の通り、安全面を考慮し、右打者の場合は三塁側、左打者の場合は一塁側の次打者席で待機するよう指導されているため、JSAルールでは国際ルールの改正に先駆けて「ルール」として採用した。WBSCにも上記内容に国際ルールを改めるよう提案すべきではないか。

7-2 項 打撃の順序

P70

1. 各チームの打順（バッティングオーダー）は、打順表（ラインアップカード）に記載され、試合前に球審に提出しなければならない。
2. 攻撃側のプレイヤーは、打順表に記載された順序で打者にならなければならない。また、打順は試合の途中で変更することはできない。
プレイヤーの交代を行うときは、交代者は交代したプレイヤーの打順に入らなければならない。
3. 各回（イニング）の先頭打者は、前の回に打撃を完了した打者の次の打順の者である。
4. 打者の打撃中に第3アウトが成立して、その回が終了したときには、その打者が次の回の先頭打者になる。

〈効果〉2項

打順の誤りはアピールプレイである。守備側の監督・コーチ、あるいはプレイヤーによってのみ行うことができる。（ボールデッド中でもできる）

守備側チームは、すべての野手が守備位置からベンチへ向かってフェア地域を離れたとき、打順誤りに対するアピールの権利を失う。

- (1) 不正位打者が打席に入っている間にアピールされたときは、
 - 1) 正位打者が打席に入って不正位打者のボールカウントを引き継ぐ。
 - 2) 不正位打者の打撃中の走者の進塁・得点は、すべて有効である。
- (2) 不正位打者の打撃が完了し、次の打者に対して投球動作に入る前「正・不正にかかわらず」にアピールされたときは、
 - 1) 不正位打者の打撃によるか、その打者が失策・四球・

7-2 項 打撃の順序

P69

1. 各チームの打順（バッティングオーダー）は、打順表（ラインアップカード）に記載され、試合前に球審に提出しなければならない。
2. 攻撃側のプレイヤーは、打順表に記載された順序で打者にならなければならない。また、打順は試合の途中で変更することはできない。
プレイヤーの交代を行うときは、交代者は交代したプレイヤーの打順に入らなければならない。
3. 各回（イニング）の先頭打者は、前の回に打撃を完了した打者の次の打順の者である。
4. 打者の打撃中に第3アウトが成立して、その回が終了したときには、その打者が次の回の先頭打者になる。

〈効果〉2項

打順の誤りはアピールプレイである。守備側の監督・コーチ、あるいはプレイヤーによってのみ行うことができる。（ボールデッド中でもできる）

守備側チームは、すべての野手が守備位置からベンチへ向かってフェア地域を離れたとき、打順誤りに対するアピールの権利を失う。

- (1) 不正位打者が打席に入っている間にアピールされたときは、
 - 1) 正位打者が打席に入って不正位打者のボールカウントを引き継ぐ。
 - 2) 不正位打者の打撃中の走者の進塁・得点は、すべて有効である。
- (2) 不正位打者の打撃が完了し、次の打者に対して投球動作に入る前「正しい投球・不正投球にかかわらず」にアピールされたときは、
 - 1) 不正位打者の打撃によるか、その打者が失策・四球・

※ルール改正の理由・趣旨

（正・不正にかかわらず）の文章表現を、より内容をわかりやすくするために（正しい投球・不正投球にかかわらず）に修正を行った。